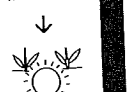
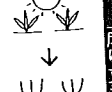
【暮】

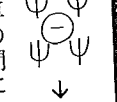
六年

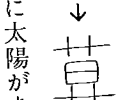
画数 14
筆順 莫 暮
オン ボ
クン くれ・らす・れる

成り立ち









本字は〝莫〟でした。草の間に太陽がある形を表した字で、「日が〝くれる〟」ことを表した字です。

太陽が草の間に沈んで、「見えなくなった」ことを表していますから、この字が「無い」という意味に使われるようになりました。例莫逆（バクギャク）の友（逆らうことの無い友だち）。

そのため、「日がくれる」ことを表す字として、莫に〝日〟を加えて〝暮〟という字を作りました。例暮色、薄暮、朝暮。

また、「一日の終わり」の意味から、「季節の終わり」「年の終わり」の意味にも使われるようになりました。例暮春、歳暮（年の暮れ）。

使い方

▽昔は、日が出る時刻を〝明け六つ〟、日が沈（しず）む時刻を〝暮れ六つ〟と言い、この時、お寺では鐘（かね）を六つ打ちました。「夕焼け小焼けで日が暮れて、山のお寺の鐘が鳴る」というのは、この〝暮れ六つ〟の鐘のことを言ったものです。

▽おじいちゃんが子供のころは、お歳暮（せいぼ）を届（とど）ける役が子供に割り当てられていて、お使いをするのが楽しみだったそうです。昔は、子供はお小遣（こづか）いがもらえなかったので、この時のお駄賃（ダチン）だけが、子供に使えるお金だったからです。

熟語例

▽暮色（ボショク）（夕暮れの様子）

▽薄暮（ハクボ）（薄は〝迫（せま）る〟意味。「暮れに近づく」という意味で、「夕暮れ」の意味に使われます。）

▽朝暮（チョウボ）（朝夕）

▽暮春（ボシュン）（春の終わりごろ。春三か月を、早春、仲春、晩春の三つに分けますが、その晩春に当たります。）

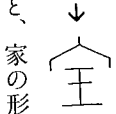
▽歳暮（セイボ）（「歳（とし）の暮れ」。一年の終わり。ふつう、一年間の感謝の意味で、年末に贈（おく）る「贈り物」のことを言います。）

【宝】

六年

画数 8
筆順 宀 宝 宝
オン ホウ
クン たから

成り立ち



〝宝石〟の意味を表した〝玉〟と、家の形を表した〝宀〟とを組み合わせて作った字です。

「家の中に宝石がある」ことを表した字で、宝石のように「貴重な物（たから）」を表した字です。

主に、〝金〟〝銀〟〝宝石〟など、「値打ちの高い品物」のことを言います。例宝石、財宝、国宝、家宝、宝庫、秘宝。

また、「大事な物」や「有益な物」を言うのにも使います。例子宝、宝典。

また、天子に関する美称としても使います。例宝位、宝算、宝命。

使い方

▽わたしのおかあさんは、宝石が好きです。ダイヤモンドの指輪や、ルビーのペンダントなどを持っています。「お金があったら、もっと色々な宝石が買いたいのだけれど」と言います。

▽ぼくのおばさんには長い間子供が生まれませんでしたが、最近、やっと男の子が生まれました。「子宝にめぐまれて、よかった」と皆が言いました。

熟語例

▽宝石（ホウセキ）（美しく、堅（かた）くて値打ちのある鉱石。ダイヤモンド、ルビー、サファイアなど）

▽財宝（ザイホウ）（財産や宝物）

▽国宝（コクホウ）（国の宝。とくに、国が指定し保護している美術品や建築など）

▽家宝（カホウ）（その家に代々伝わって来た宝物）

▽宝庫（ホウコ）（宝のくら、ということから、貴重な産物がたくさんある所、の意味にもつかいます。）

▽秘宝（ヒホウ）（秘密の宝）

▽子宝（こだから）（子供のこと。子供を大切にしていう言葉）

▽宝典（ホウテン）（貴重な書物）